

有江 賢志朗さん（環境科学専攻・博士後期課程2年）が 日本地球惑星科学連合 学生優秀発表賞を受賞しました。

2021年5月30日～6月6日に開催された日本地球惑星科学連合2021年大会において、大学院自然科学研究科環境科学専攻・自然システム科学コースに所属する博士後期課程2年の有江賢志朗さんが学生優秀発表賞を受賞しました。

本賞は、日本地球惑星科学連合2021年度大会で優秀な発表をした学生発表者に授与される賞です。

本研究では、近年飛騨山脈北部で確認された氷河の年間質量収支（年間で氷河の質量がどのくらい変化したか）、冬期質量収支（冬期に氷河上にどれだけの雪が涵養されたか）、夏期質量収支（夏期にどれくらいの雪が融けたか）をはじめ算出し、これを世界の氷河の質量収支と比較しました。その結果、飛騨山脈の氷河は世界で最も温暖・湿潤な環境に存在していることが示されました。

発表者：有江 賢志朗（環境科学専攻・博士後期課程2年）

発表題目：飛騨山脈北部における山腹氷河の質量収支特性

指導教員：奈良間 千之 教授

学会HP：<http://www.jpgu.org/ospa/2021meeting/>

